

「突然」「非公開」

生徒・保護者に説明なし

現場の教職員はもとより、在校生、保護者、同窓生、そしてこれから進学を検討している中学生、その保護者など、実際にその学び舎に関わる人たちには全く説明もないまま、8月27日の大阪府教育委員会会議で突然「大阪市立高等学校等の大阪府への移管について」が「非公開」の議題として議論され、承認されました。

こんな乱暴に「政治が教育に介入」していいのでしょうか。

21の大阪市立高校を (丸投げ) 大阪府に移管

移管の 主な内容

大阪市立高校21校全校を22年4月に府に移管する方向ですめる

20年夏頃までに「移管計画」をとりまとめ、秋の府・市両議会に条例改正案を提出する

市立高校の再編整備の方向性について、今後府市で議論し整理していく

22年4月に新校設置となる、市立南高校・西高校・扇町総合高校の3校統廃合について、廃校となる南高校・西高校の校舎・用地は移管しない

市立工芸高校に併設され

教育 必要なし

ているデザイン教育研究所(専門学校)は移管しない。

大阪府立高校を府に移管することに、教育上の必要性はまったくありません。

専ら維新の会がねらう「都構想」の既成事実化を



無責任 無計画

歴史と伝統を持つ政令指定都市として、大阪市は、

図るための施策であることは明らかです。府教委は「移管によって教員の異動の範囲が広がり資質向上につながる」と説明していましたが、教員の資質向上のためであれば、研修を充実させれば良いことです。



府立高校とは異なる、独自の教育を実施してきました。それを、何の計画もなく、府に丸投げするなどはいけません。無責任であり、学校や生徒を混乱させるものです。

また、これまで培われた市立高校の伝統や文化が失われることになれば、大きな損失であり、高校進学をめざす大阪の子どもたちの

高校つづし さらに推進

選択肢を狭めることにもなります。

工芸高校に併設され、デザイン界に多くの人材を輩出してきたデザイン教育研究所が、移管の対象となっていないことは、その一例です。

府立への移管を契機に、高校つづしがねらわれていることは明らかです。

「3年連続定員に満たない高校は再編整備」との府立学校条例が適用されることで、「定員に満たない」状況が続いている、市立工業高校の統廃合などがとも懸念されます。

子どもたちの「学ぶ権利」を保障するために設置されている公立高校を「定員」で競わせ、統廃合する施策には何の道理もありません。理不尽な高校つづしは断じて許せません。

原水爆禁止世界大会に参加して

まるで「地獄絵図」

2日目(8月8日)は16の分科会が開催されました。私は「動く分科会『被爆遺構・碑めぐり』」に参加しました。分科会では、最初に被爆者の話を1時間ほど聞きました。

ご自身の被爆体験を丁寧に話されました。

爆発した瞬間の音・光・熱、そして目の前の惨状を話されました。あまりにもリアルでした。それを経験することのない平和な時代になって良かったと思う、と同時に74年たった今でも臨場感たっぷりに話されることに今も尚苦しんでいるだろうことが伝わってきました。

焼け野原となった長崎市内には真っ黒焦げとなった「人のような物」や、皮膚がはがれ落ち血を流しながら助けを求め歩いている人、熱線による大気の大熱さから水を求め歩く行列……。そんな姿を見ながら家族を探したそうです。

「地獄絵図」と表現していました。

普段、兵士たちの怪我を手当する看護師が「こんなむごい姿見たことがない」と言うほどのものだったそうです。

当時は戦争で医療器具も取りそろえられなかったから、大けがの手当に麻酔なく処置。濃い放射能の中、動けず痛みひたすら耐えることしか出来なかった状況はもう想像出来ませんでした。【高南中・笠松弥央】